

作・演出
長谷川孝治

キャスト

福士賢治 畑澤聖悟 後藤伸也 永井浩仁 佐藤誠 山田竜大 長谷川等 (浪岡劇研)

スタッフ

舞台監督/野村真仁 照明/岩城 保+ZEST 装置/鈴木徳人 美術/三浦孝治 音響協力/舞台音響 囃子組

後援/日本エアシステム 協力/青年団

弘前劇場公演

夏の匂い

一九九二年「秋の隣」リニューアル版
午後の光が射す病室に訪れる人達。
何気ない会話が作るこころのかたち。

〈弘前公演〉一九九八年七月十一日〔土〕〜十九日〔日〕

スタジオ・テネガ 036-8013 青森県弘前市上瓦ヶ町1-2 phone 0172-32-1794

チケット販売 スペース・テネガ 0172-32-1794 他、市内各ブレイクイン

〈東京公演〉一九九八年七月三十一日〔金〕〜八月二日〔日〕

ザ・スズナリ 155-0031 東京都世田ヶ谷区北沢4-15 phone 03-3469-0511

チケット販売 チケットぴあ 03-5237-9999 チケットセン 03-5990-9999

〈伊丹公演〉一九九八年八月七日〔金〕〜九日〔日〕

AI・HALL 664-0846 兵庫県伊丹市伊丹2-4-1 phone 0727-82-2000

チケット販売 チケットぴあ 06-563-9999 チケットセン 06-232-9999

AI・HALL 0727-82-2000

弘前公演	7.11(土)	12(日)	13(月)	14(火)
15:00~		★		休
19:30~	★		★	休

	15(水)	16(木)	17(金)	18(土)	19(日)
				★	★
	★	★	★	★	

※開場30分前・受付は45分前 ※14日休演日

東京公演	7.31(金)	8.1(土)	8.2(日)
15:00~		★	★
19:00~	★	★	

※開場30分前・受付60分前

伊丹公演	8.7(金)	8.8(土)	8.9(日)
15:00~		★	★
19:00~	★	★	

※開場30分前・受付60分前



伊丹公演主催
伊丹市/新伊丹市文化振興財団
AI・HALL自主企画 vol.96



芸術文化振興基金助成事業

【補注】「秋の隣」は、一九九二年七月十一日(土)〜十九日(日)に弘前市上瓦ヶ町1-2のスタジオ・テネガで上演された。この公演は、一九九二年七月三十一日(金)〜八月二日(日)に東京都世田ヶ谷区北沢4-15のザ・スズナリで上演された。この公演は、一九九八年八月七日(金)〜九日(日)に兵庫県伊丹市伊丹2-4-1のAI・HALLで上演された。

夏の匂い

長谷川孝治

五月の青森、まるで夏のような日射しの日曜日。書かなければならない原稿が山程たまっているのを無視して、何もしくいい休日にした。

小学校三年になる娘を誘って近くの川原。物置から麦藁帽子をひっぱりだして娘にかぶせ、私はサングラスをかけてくりだした。歩いて五分の、遊歩道と飛び石が整備された川原の風景は三十数年たつてずいぶん変わっていたが、土手の上の高いポプラは何も変わっていないかった。相変わらず風を受けてサラサラと音をたて、青空に手を広げてそこだけ空を切り取っていた。娘は虫を捕まえては名前を尋ね、そこへんの雑草の名前を知りたがった。どんな草にも「クサ」としか答えられない自分で、汗を流しながらグイグイと飲んだ。そしてガキの頃ってなんであんなに一日が長かったんだろうとほんやり思った。

「おい、おまえ暇か？」
「暇ってなに、お父さん」髪の毛にお日様の匂いを忍び込ませて、娘がコロコロに太ったミミズを割り箸ではさんで振り向く。「あ、いや、なんでもない。それより食うなよそれ」娘は食うかわりにミミズでプレスレットを作って私に見せた。ほとんど夏のような雲がポプラの背後から登ってきて、私は娘に一言注意の叫びを告げると、眠ることにした。まあ、他に遊んでる近所の知り合いもいるし、むにやむにやと考えているうちに気持ちのいい世界に落下していった。

「駄目じゃない、ちゃんと見てなきや」カミさんにどつかれて起きた。
たぶん三十分くらいは眠っていたらどうか、頬つぺたに雑草の跡がくつきりとついていた。
「昼、ソーメンでいいの？」カミさんがそう言い捨てて娘の手を引っ張って行く。
「うん、もう少ししたら行く」最後の方をほとんど独り言にして頬をさすった。
昼飯時のあたりにはほとんど誰もいなかった。水と風がサラサラと流れ、鼻の頭が日光を吸って火照っている。煙草に火を点けると、煙は喉を巻き込んで耳の後ろに流れていった。蟬の

声が聞こえないだけで、光の具合や風の軽さはそのまんまの夏だった。私はズボンのすそを膝の上までまくって川にそっと入った。石の上のヌメリを数分楽しんで、コンクリの傾斜した土手に腰を降ろした。そしてなにげなく膝を立てて揃えて、その上に鼻を近づけた。

皮膚と風と水と光が混じった夏の匂いがした。

物語

とある地方の個人総合病院。その入院棟の一室。ベッドが三つ。下手よりのベッドにはもう随分長いこと入院している主人公（男）が午後の日溜まりの中で新聞を読んでいます。そこに高校時代の友人が入院してくるところから物語が始まります。病室。そしてそれに連なる「死」という誰にとつても未経験なものが、日常の会話を淡々と巧緻に描いていくことでうきほりになつてきます。

男、その妻、高校時代の友人、見舞いに来る友人・知人、医師、看護婦、様々な職業を持った患者たち。すべての登場人物たちは、それぞれに他人でありながら「病室」という共通項でつながって、ある種の共同体意識すら持つています。つまり、現代社会においては「病む」ことでしか他人とつながりを持つてなくなっているのではないか。この舞台のひとつのテーマです。やがて、ある見舞客の女性が病室に何気なくやってきます。そして、何事もないかのように病室にいる人たちと会話を始めます。天気、こどもの教育、近所の工事の騒音問題、病室に関する素人解釈……。しかし、その女性はかつては主人公の男と「夏の匂い」を共有していました。死を前にしようやく平靜になりつつあった男に新たなざわめきがかよってきます。

弘前劇場キャスト・スタッフ募集のお知らせ

《募集人員》キャスト／若干名 スタッフ／若干名
《条件》年齢十八歳以上・国籍・経験不問。稽古場（浪岡町）に通うことができ、弘前劇場の芝居を見たことがある方。

お問い合わせ／（有）弘前劇場 0172-62-0717

「弘前劇場のふるさとへ飛んできませんか」

東京 5往復
大阪 3往復
札幌 2往復
名古屋 2往復
福岡 週4便

(月・水・金・日)

●7/1~7/16のダイヤです。

JASの路線は、全国と青森を結びます。

青森

地域に拠点をもちながら
全国的な活動を展開する
人たちの足になります。



ご予約・お問い合わせは、
フリーダイヤルでどうぞ。

0120-5-11283

インターネットアドレス <http://www.jas.co.jp/>

イ イ ツ バ サ